

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2026年度	履修課程 3年生 第1期	担当教員 菊地正	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 解剖学④	1 単位	15 時間

【科目概要】

- ・本授業は柔道整復師に必要な筋・骨格系解剖学を1.2年時に学習した内容を振り返り、総合的に学習する。
- ・骨格系・筋系・関節構造の統合的理解を図り、臨床応用力の向上を目的とする。

【到達目標】

- ・筋・骨格系の骨・筋・関節構造を体系的に説明することができる。
- ・各筋の起始・停止・作用・神経支配を関連付けて説明することができる。
- ・関節構造と運動機能の関係性を機能解剖学的に説明することができる。
- ・筋・骨格系解剖学に対して、根拠に基づき適切な選択・判断を行うことができる。

【授業外における学習方法】

- ・1年時に学んだ内容を復習することが望ましい
- ・1年時に使用した西先生のプリント

【成績評価方法】

- ・授業内実施の確認テスト（レポート等含む）90%
- ・毎回の確認テスト結果から、成績評価の最大10%を減点とする

【使用教材】

- ・配布プリント

【その他】

- ・毎回授業にて確認テストを実施

【 講義の内容・日程 】			
回	講義内容	備考	日程
1	総論・筋・骨格系	講義	4/9
2	骨の構造・骨の連結・頸部、頭部の骨	講義	4/16
3	体幹の骨・上肢の骨・上肢の筋	講義	4/23
4	上肢の骨・上肢の筋・上肢の神経	講義	5/7
5	下肢の骨・下肢の筋・下肢の神経	講義	5/14
6	総復習①	講義	5/21
7	総復習②	講義	5/28
8	総復習③	講義	6/4

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2026年度	履修課程 3年生 第1期	担当教員 越川, 小林	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 高齢者の生理学		1 単位 15 時間

【科目概要】

- ・生理学①②の知識を基礎にして、高齢者に特徴的な生理学的機能について学習する。
- ・高齢者の生理に加えて生理学①②で学習した内容を復習する。
- ・講義は、教科書を中心にまとめたレジュメに沿って行う。
- ・講義の後半は、国家試験向けの演習問題を配付し、演習を行う。

【到達目標】

- ・高齢者の人体の機能を動物機能と植物機能を説明できる。
- ・生理学①②で学習した内容を説明できる。

【授業外における学習方法】

- ・講義の後半で行う国家試験類似問題を見直すことによって、その週に学習した内容を振り返るように努めること。
- ・節目節目で行う問題演習の問題は、定期試験前に必ず解き直すこと。

【成績評価方法】

- ・定期試験で判定する。
- ・60点以上(100点満点換算)を合格とする。

【使用教材】

- ・生理学(南江堂)改訂第4版 彼末一之

【その他】

- ・生理学は、病態を理解するための礎になる学問である。ことあるごとに振り返り生理学的なものを見方を身につけてほしい。

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容				備考
1	4/7	火	16 高 A	細胞・組織の加齢現象①②&1生理学とは, 8血液	講義
2	4/14	火	A	細胞・組織の加齢現象③&10循環	講義
3	4/21	火	B	高齢者の生理的特徴①&6内分泌	講義
4	4/28	火	B	高齢者の生理的特徴①&7生殖	講義
5	5/12	火	B	高齢者の生理的特徴②&13栄養と代謝, 14消化と吸収	講義
6	5/19	火	C	運動と加齢①&15体温, 2筋の生理	講義
7	5/26	火	C	運動と加齢②&3神経の生理	講義
8	6/2	火	C	運動と加齢③&3神経の生理	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	3年生 第1期	越川, 小林	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	競技者の生理学		1 単位 15 時間

【科目概要】

- ・生理学①②の知識を基礎にして、競技者に特徴的な生理学的機能について学習する。
- ・競技者の生理に加えて生理学①②で学習した内容を復習する。
- ・講義は、教科書を中心にまとめたレジュメに沿って行う。
- ・講義の後半は、国家試験向けの演習問題を配付し、演習を行う。

【到達目標】

- ・競技者の人体の機能を動物機能と植物機能を説明できる。
- ・生理学①②で学習した内容を説明できる。

【授業外における学習方法】

- ・講義の後半で行う国家試験類似問題を見直すことによって、その週に学習した内容を振り返るように努めること。
- ・節目節目で行う問題演習の問題は、定期試験前に必ず解き直すこと。

【成績評価方法】

- ・定期試験で判定する。
- ・60点以上（100点満点換算）を合格とする。

【使用教材】

- ・生理学（南江堂）改訂第4版 彼末一之

【その他】

- ・生理学は、病態を理解するための礎になる学問である。ことあるごとに振り返り生理学的なものを見方を身につけてほしい。

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容		備考
1	6/9 火 17	競技者の生理 A 成長に伴う体や運動能力の変化①②&9骨の生理	講義
2	6/16 火	A 成長に伴う体や運動能力の変化③&4運動の生理	講義
3	6/23 火	A 成長に伴う体や運動能力の変化④⑤&4運動の生理	講義
4	6/30 火	B 競技者の生理学的特徴・変化①②&5感覚の生理	講義
5	7/7 火	B 競技者の生理学的特徴・変化③④&5感覚の生理	講義
6	7/14 火	問題演習	講義
	定期試験		
7	7/28 火	試験解説	講義
8	8/3 月	問題演習(卒業試験演習会)	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	3年生 第1期、2期	北村 一雄	
講義区分		授業科目名	
専門基礎分野		外科学概論	2 単位 60 時間

【科目概要】

外科学の総論さらに祖茂な疾患についてを学習する。

【到達目標】

外科学全般の知識を習得する。

【授業外における学習方法】

【成績評価方法】

定期試験の結果により評価を行う。

【使用教材】

外科学概論

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	外科学とは・損傷	講義
2	熱傷	講義
3	炎症と外科感染症Ⅰ	講義
4	炎症と外科感染症Ⅱ・腫瘍Ⅰ	講義
5	腫瘍Ⅱ・ショック	講義
6	輸血・輸液Ⅰ	講義
7	輸液・輸血Ⅱ	講義
8	消毒と滅菌・手術Ⅰ	講義
9	手術Ⅱ・麻酔Ⅰ	講義
10	麻酔Ⅱ・移植と免疫	講義
11	出血と止血	講義
12	脳神経外科Ⅰ	講義
13	脳神経外科Ⅱ・総論復習	講義
14	総論復習	講義
15	定期試験解説	講義
16	甲状腺・頸部疾患・胸壁・呼吸器疾患Ⅰ	講義
17	胸壁・呼吸器疾患Ⅱ	講義
18	胸壁・呼吸器疾患Ⅲ・心臓・脈管疾患Ⅰ	講義
19	心臓・脈管疾患Ⅱ	講義
20	心臓・脈管疾患Ⅲ	講義
21	心臓・脈管疾患Ⅳ・乳腺疾患Ⅰ	講義
22	乳腺疾患Ⅱ・腹部外科疾患Ⅰ	講義
23	腹部外科疾患Ⅱ	講義
24	腹部外科疾患Ⅲ	講義
25	腹部外科疾患Ⅳ	講義
26	腹部外科疾患Ⅴ・各論復習	講義
27	各論復習	講義
28	各論復習	講義
29	各論復習	講義
30	定期試験解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	3年生 第1期、2期	小堀 孝浩	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	リハビリテーション医学		2 単位 60 時間

【科目概要】

授業は患者のもつ障害に対し、医師および専門職が力を合わせて良いリハビリテーション医療を行うために、リハビリテーション医学の知識と技術を学習する。具体的には、①障害やリハビリテーションの方法を学ぶことで、リハビリテーション医学の理解を深める。②リハビリテーションに必要な検査を学び、実際に利用できるようになる。③障害や各疾患におけるリハビリテーション医学の知識を深め、臨床現場で必要な病態・検査・治療法を理解できるようになる。

【到達目標】

リハビリテーション医学を学ぶことで、卒業後の臨床現場で役立つ評価の仕方や技術・アプローチを理解・身につけることを目標に取り組む。そして、リハビリテーションにおける関わり方や多職種連携のできる医療従事者になれるように、知識や技術を学ぶ。また、リハビリテーション医学に関わる障害や各疾患についても深く学ぶ。

【授業外における学習方法】

教科書で復習するだけでなく、自分の身体や友人の身体を実際に触ったり、動かしたり、検査方法の練習をすることで、身体で覚えるようにする。それにより、卒業後の臨床現場でも応用できる能力を身につけていく。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【使用教材】

- ・リハビリテーション医学（南江堂）の教科書を使用
- ・担当教員が毎回授業資料を配布
- ・関節可動域の測定方法や徒手筋力検査の測定方法のオリジナル動画を視聴

【その他】

・授業の進行状況により、実技指導（関節可動域測定、徒手筋力検査（MMT）、理学的検査法などの評価の仕方・練習）もできる時があれば取り組む。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	リハビリテーションの総論① p.1-18	講義
2	リハビリテーションの総論② p.19-30	講義
3	リハビリテーション評価学① p.31-56	講義
4	リハビリテーション評価学② p.31-56	講義
5	リハビリテーション評価学③ p.31-56	講義
6	リハビリテーション評価学④、リハビリテーション障害学と治療学① p.31-56、p.57-108	講義
7	リハビリテーション障害学と治療学② p.57-108	講義
8	リハビリテーション障害学と治療学③ p.57-108	講義
9	リハビリテーション医学の関連職種 p.109-117	講義
10	リハビリテーション治療技術① p.119-155	講義
11	リハビリテーション治療技術② p.119-155	講義
12	リハビリテーション治療技術③ p.119-155	講義
13	リハビリテーション治療技術④ p.119-155	講義
14	リハビリテーション治療技術⑤ p.119-155	講義
15	試験解説・リハビリテーション評価学の実技①	講義
16	1学期の復習・高齢者のリハビリテーション①(フレイル・認知症等) p.157-176	講義
17	高齢者のリハビリテーション②(パーキンソン病・脳卒中①) p.157-176	講義
18	高齢者のリハビリテーション③(パーキンソン病・脳卒中②) p.157-176	講義
19	運動器のリハビリテーション①(骨粗鬆症①) p.177-201	講義
20	運動器のリハビリテーション②(骨粗鬆症②) p.177-201	講義
21	運動器のリハビリテーション③(上肢損傷後症候群①) p.205-217	講義
22	運動器のリハビリテーション④(上肢損傷後症候群②) p.205-217	講義
23	運動器のリハビリテーション⑤(腰痛症) p.231-238	講義
24	運動器のリハビリテーション⑥(頰腕症候群) p.225-231	講義
25	運動器のリハビリテーション⑦(下肢損傷後症候群①) p.217-225	講義
26	運動器のリハビリテーション⑧(下肢損傷後症候群②) p.217-225	講義
27	運動器のリハビリテーション⑨(アキレス腱断裂)、リハビリテーション評価学の実技② p.238-244	講義
28	リハビリテーションと福祉、障害者スポーツ、国家試験対策① p.245-250、p.251-257	講義
29	国家試験対策②・リハビリテーション評価学の実技③	講義
30	試験解説・国家試験対策③・リハビリテーション評価学の実技④	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2026年度	履修課程 3年生 第1期、2期	担当教員 仲座 政宏	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 衛生学・公衆衛生学		2 単位 60 時間

【科目概要】

- ①臨床医学が個人の疾病を対象とするものであるのに対し、公衆衛生は集団の健康を対象とするものである。
- ②健康の概念は社会や環境、時代と共に変化しており、それに合わせて公衆衛生活動も変化してきた。
- ③現代の公衆衛生は予防医学、環境の改善、生活水準の保障、健康教育などを推進する実践の学問である。

【到達目標】

- ①公衆衛生学の目的は、人々を取り巻く環境を理解し、傷病を予防し、健康の保持・増進を図ることである。
- ②生態系を基盤とした集団および個人の健康を理解する。また、人間の生涯のそれぞれの段階における公衆衛生の実践活動を通して、予防活動の重要性を教授する。
- ③保健医療及び福祉・介護体系の中で、医療人（柔道整復師）としての管理能力を身につける。

【授業外における学習方法】

授業後の毎回の復習に重点を置き、常日頃から、身の回りで起きている衛生・公衆衛生学的事例に関心を向けるよ

【成績評価方法】

定期試験の成績、毎回授業後に実施する課題テスト（国試形式の4択で3ないし5問）の提出状況を加味して、総合的に評価する。

【使用教材】

教科書：「シンプル衛生公衆衛生学」 2026
 参考書：国民衛生の動向 2025/2026、一般財団法人 厚生労働統計協会

【その他】

授業で話す内容は、教科書に準拠しますが、毎回資料（パワーポイントで作成）を配布する。

【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考 (教科書)
1	4/8	衛生学・公衆衛生学序論	第1章 1-18頁
2	4/15	健康をめぐって(WHOの定義、日本国憲法)	
3	4/22	保健統計(健康の測定と健康指標・人口統計)	第2章 19-31頁
4	4/29	疾病予防と健康管理	第4章 55-84頁
5	5/13	疾病の自然史と予防(健康日本21、健康増進法)	
6	5/20	①集団検診 ②検査精度の指標:感度・特異度・陽性的中度	
7	5/27	主な傷病の予防 ; ①感染症の予防	第5章 85-140頁
8	6/3	②循環器系疾患の予防	
9	6/10	③糖尿病・脂質異常症・メタボリック症候群の予防	
10	6/17	④がんの予防・腎疾患・アレルギー疾患の予防	
11	6/24	消毒(①消毒法の種類、②消毒薬の使用領域、③消毒水準からみた消毒薬の選択)	
12	7/1	環境保健;①人間の環境(環境汚染から地球環境問題へ)	第6章 141-219頁
13	7/8	②環境の把握とその評価・対策	
14	7/15	③物理的環境要因・化学的環境要因・生物学的環境要因	
15	7/29	④大気汚染・水質汚濁・衣食住の衛生・環境管理	
16	8/26	地域保健と保健行政の ;地域保健活動と行政	第7章 220-236頁
17	9/2	母子保健 ;①母子保健の水準	第8章 237-252頁
18	9/9	②母子保健の課題、母子保健活動と行政	
19	9/16	学校保健; ①学校保健の現状と対策、②学校感染症、③学校環境衛生	第9章 253-280頁
20	9/29	産業保健 ;①働く人々の健康、②労働災害・事故、③職業病	第10章 281-308頁
21	10/7	④職場における健康診断と健康増進	
22	10/14	⑤職場におけるメンタルヘルス対策・過重労働対策	
23	10/21	高齢者の保健・医療・介護; ①高齢者の保健と医療	第11章 309-326頁
24	10/28	②後期高齢者医療制度	
25	11/4	精神保健 ;障害者福祉と精神保健福祉	第12章 327-346頁
26	11/11	疫学 ;①疫学概念(健康状態・疾病の測定と評価)	第3章 33-54頁
27	11/18	②疫学的研究事例の紹介(症例対照研究・コホート研究・介入研究など)	
28	11/25	国際保健医療 ;国際保健の概要・WHOの役割と課題	第13章 347-360頁
29	12/2	保健医療福祉の制度と法規 ;①地域保健法の概要	第14章 361-383頁
30	12/16	②医療の倫理と安全の確保	

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	3年生 第1,2期	煙山 奨也	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	関係法規		1 単位 30 時間

【科目概要】

柔道整復師として業務を行ううえで必要となる法制度について理解することを目的とする。

まず、法の基本概念および法体系について学び、次に柔道整復師法を中心として、柔道整復師の資格、業務、施術所および広告等に関する規定について理解する。

さらに、医療法、医療従事者に関する資格法など、医療従事者として必要な関連法規について学習する。

【到達目標】

本授業の履修により、以下の事項を説明できることを目標とする。

- ・柔道整復師の法的な位置づけおよび業務範囲を説明できる。
- ・柔道整復師法の主要な規定（免許、業務、施術所、広告、罰則など）を理解し説明できる。
- ・医療従事者に関する資格法および医療法の基本的内容を理解し説明できる。
- ・医療従事者として遵守すべき法令の重要性を理解できる。

【授業外における学習方法】

- ・講義で扱った内容について教科書および配布資料を用いて復習し、法規分野の理解の定着を図ること。
- ・ニュースや新聞等を活用し、医療制度や法改正に関する最新情報を確認すること。

【成績評価方法】

- ・定期試験（70％）
- ・授業内で実施する確認テスト（30％）
- ・授業内で適宜小テストを実施する。小テストは理解度の確認を目的として実施するが、成績が著しく不良な場合は、10％の範囲内で減点法により評価に反映することがある。
- ・授業態度については、授業と関係のない私語、電子機器の操作、無断での入退室など、不適切な授業態度がみられる場合は、10％の範囲内で減点法により評価に反映する。

【使用教材】

- ・配布プリント
- ・関係法規 2026年版 全国柔道整復学校協会監修（医歯薬出版）

【その他】

- ・医療人としてふさわしい態度で授業に臨むこと。
- ・授業内容の理解を深めるため、講義後の復習を行うこと。
- ・適宜実施する確認テストの結果をもとに理解度の確認を行う。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	法の意義、法の体系 pp.1～8	講義
2	柔道整復師法の目的、柔道整復師免許 pp.10～14	講義
3	柔道整復師名簿、柔道整復師免許証 pp.14～19	講義
4	柔道整復師国家試験 pp.20～23	講義
5	柔道整復師の業務 pp.24～28	講義
6	施術所、広告 pp.29～36	講義
7	罰則、指定登録機関及び指定試験機関 pp.37～44	講義
8	柔道整復師法に関するまとめ	講義
9	医療従事者の資格法(医師法、歯科医師法) pp.47～56	講義
10	医療従事者の資格法(保健師助産師看護師法、薬剤師法など) pp.56～68	講義
11	医療法①(総論) pp.69～78	講義
12	医療法②(病院、診療所及び助産所) pp.79～90	講義
13	社会福祉関係法規、社会保険関係法規 pp.91～104	講義
14	個人情報保護法 pp.105～109	講義
15	柔道整復師法および関係法規のまとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	3年生 第1期	紺野 直能	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	柔道③		1 単位 30 時間

【科目概要】 武道は武技、武術から発生した我が国伝統の文化であることから、柔道によって日本文化を知ること。また、相手の動きに応じて基本動作や基本となる技を身に付け、相手と攻防することによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。武道に積極的に取り組むことを通じて、武道の伝統的な考えを理解し、相手を尊重して稽古や試合ができるようにする。

【到達目標】
講道館柔道「投の形」から技の理合を学び柔道の理解を深める。
礼法・受身・投の形を通じて形式を重んじ、相手と協力する心を身に付ける。

【成績評価方法】
出席回数
(各学期にて3回以上欠席は試験の受験資格を認めない。また受験後の場合は実技点数を含まない。)
授業準備、授業意欲・態度、実技試験、(出席回数以外で実技試験が出来ない学生はレポート)にて評価する。
授業意欲、態度50点、実技試験(レポート)50点の合計100点

【授業の特徴・形式】
柔道実技(礼法、受身、基本動作、打込、投込、乱取、固技、投技、投の形)

【使用教材】
柔道 (南江堂)

【その他】
講義は各自の柔道衣を着用して受講すること。

【 内容・日程 】		
回	内容	備考
1	「投の形」復習(礼法・間合・残身・取と受の注意点)	実技
2	「投の形」における手技（浮落、背負投、肩車）の理論と実践	実技
3	「投の形」における手技（浮落、背負投、肩車）の理論と実践	実技
4	「投の形」における腰技（浮腰、払腰、釣込腰）の理論と実践	実技
5	「投の形」における腰技（浮腰、払腰、釣込腰）の理論と実践	実技
6	「投の形」における足技（送足払、支釣込足、内股）の理論と実践	実技
7	「投の形」における足技（送足払、支釣込足、内股）の理論と実践	実技
8	「投の形」における所作の再確認	実技
9	「投の形」における（手技・腰技・足技）の理論と実践	実技
10	「投の形」における（手技・腰技・足技）の理論と実践	実技
11	「投の形」における（手技・腰技・足技）の理論と実践	実技
12	「投の形」における（手技・腰技・足技）の理論と実践	実技
13	基本動作、打ち込み、立技、固技の乱取り稽古	実技
14	基本動作、打ち込み、立技、固技の乱取り稽古	実技
15	柔道総復習	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	3年生 第2期	煙山 奨也	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	社会保障制度		1 単位 15 時間

【科目概要】

患者に対する施術は、外傷等に苦しむ者を支えるために不可欠なものであるが、治療費等の経済面も大きな問題となる。また、多くの障害者や高齢者は、高い医療ニーズに加え、生活面での基本的なニーズを有している。これらの人々を支援する制度の全体を理解せずに、障害者や高齢者を支えることは困難である。本講義では、社会保障制度の概要および支援に関わる制度、ならびに柔道整復師の療養費制度について学習する。

【到達目標】

柔道整復師は開業することが可能であり、療養費をはじめとした社会保障制度に関する理解は重要である。本講義では、医療費等の社会保障制度について理解し、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用するための基礎的知識を身に付け、社会保障制度の基本的な仕組みについて説明できることを目標とする。

【授業外における学習方法】

- ・ 講義で配布した資料の復習をすること。
- ・ ニュースや新聞等を用いて、社会保障制度に関する最新の情報を得ること。
- ・ 本講義は、既に履修した「関係法規」との関連が深いいため、関係法規の内容についても復習を行うこと。

【成績評価方法】

- ・ 原則として定期試験により評価する。
- ・ 授業内で適宜小テストを実施する。小テストは理解度の確認を目的として実施するが、成績が著しく不良な場合は、10%の範囲内で減点法により評価に反映することがある。
- ・ 授業態度については、授業と関係のない私語、電子機器の操作、無断での入退室など、不適切な授業態度がみられる場合、小テストの結果を含め10%の範囲内で減点法により評価に反映する。

【使用教材】

- ・ 配付プリント
- ・ 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 全国柔道整復学校協会監修（医歯薬出版）
- ・ 関係法規 2026年版 全国柔道整復学校協会監修（医歯薬出版）

【その他】

- ・ 教科書および配布プリントを用いた講義形式で行う。
- ・ 適宜確認テストを実施するため、必ず復習を行うこと。
- ・ 本講義の理解を深めるため、既に履修した「関係法規」の内容についても適宜復習すること。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	社会保障とは pp.1～4	講義
2	社会福祉制度 pp.4～7	講義
3	社会保険制度(公的年金) pp.4～6	講義
4	社会保険制度(介護保険) pp.6	講義
5	社会保険制度(医療保険) pp.7～16	講義
6	柔道整復師の療養費(受領委任払い) pp.19～25	講義
7	柔道整復師の療養費(施術管理者制度) pp.23～32	講義
8	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026 年度	3年生 第1期、2期	西 健喜	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学⑤		2 単位 60 時間

【科目概要】

1,2年時までに学んだ柔道整復理論と解剖学の知識をもとに、臨床応用を想定しうる講義・演習を行う。プリントを中心に講義を行い、問題演習にて習熟度の確認を行う。

【到達目標】

柔道整復の臨床応用を理解するために必要な解剖学的な基礎知識を幅広く学習する。

柔道整復師に必要な解剖学の知識を用い、様々な問題に対応を可能とすることを到達目標とする。

- ・外傷の合併症の理解に関連する「内臓器（脈管・消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器・中枢神経）」について説明できる
- ・骨折、脱臼またその転位や合併症に関わる「骨の構造および関節構造・筋の付着と作用」について説明できる
- ・上記の内容を元に選択肢問題に対応できる

【授業外における学習方法】

- ・事前学習(予習)として、これまで学んだ柔道整復師に必要な基礎的知識を復習しておくこと。
- ・事後学習(復習)として、講義で実施した内容を復習しておくこと。
- ・日々の復習と理解度確認を目的として、該当科目を範囲とする「実力試験」を定期的実施する（全6回）

※試験日程：5/16(土)、6/13(土)、7/11(土)、9/5(土)、10/17(土)、11/21(土)

※9/5(土)第4回実力試験の結果、理解に不安が見られる学生に対しては、早期に遅れを取り戻すための「補習講座」の受講を必須として指定する場合がある。柔道整復師としての資質を備えるための重要な教育指導の一環であり、対象者は原則として欠席は認めない。

【成績評価方法】

・本科目の単位修得は、原則として12月に実施する「2期科目合同試験」の結果によって判定する。全問題の正答率60%以上を合格基準とする。※該当科目：臨床柔道整復学⑤・⑥・⑦、柔道整復実技特講④・⑤

※成績の基本評価は上記試験によるが、日々の履修状況（授業への積極的な参加姿勢）は、合同試験突破の「必須プロセス」として強く注視するとともに、医療従事者を目指す者としての「基本姿勢」として極めて重要視する。そのため、授業とは関係のない私語、不必要な電子機器の操作、無断の入退出など、不良な参加状況や授業態度が見られた場合には、最大10点の範囲で減点を行うことがある。

【使用教材】

- ・配布プリント
- ・柔道整復学（理論編） 全国柔道整復学校協会 第6版 医歯薬出版
- ・解剖学 全国柔道整復学校協会 第2版 医歯薬出版

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	講義に関するオリエンテーション 2期合同試験(該当科目)の説明、実力試験や補習について。	講義
2	柔道整復師と「細胞と組織」 損傷の治癒過程に関係する「細胞と組織」の知識を学ぶ。	講義
3	柔道整復師と「脈管系(心臓～動脈)」 外傷時の合併症の理解に必要な「脈管系」の知識を学ぶ。	講義
4	柔道整復師と「脈管系(静脈～リンパ)」 外傷時の合併症の理解に必要な「脈管系」の知識を学ぶ。	講義
5	第2回～4回 「細胞と組織」「脈管系」のまとめ。	講義
6	柔道整復師と「消化器(口腔～直腸)」 外傷時の合併症の理解に必要な「口腔内の構造」、および「消化管(食道～直腸)」の知識を学ぶ。	講義
7	柔道整復師と「消化器(肝臓・胆嚢・膵臓)、腹膜」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷、その理解に必要な「消化器(肝臓・胆嚢・膵臓)」の知識を学ぶ。	講義
8	柔道整復師と「呼吸器(鼻～肺)」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷、その理解に必要な「呼吸器(鼻～肺)」の知識を学ぶ。	講義
9	第6回～第8回 「消化器・呼吸器」のまとめ。	講義
10	柔道整復師と「泌尿器(腎臓～尿道)」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷、その理解に必要な「泌尿器(腎臓～尿道)」の知識を学ぶ。	講義
11	柔道整復師と「泌尿器(男性尿道)」「生殖器(男性)」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷の理解に必要な「生殖器(男性)」の知識を学ぶ。	講義
12	柔道整復師と「生殖器(女性)」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷の理解に必要な「生殖器(女性)」の知識を学ぶ。	講義
13	第10回～第12回 「泌尿器・生殖器」のまとめ。	講義
14	柔道整復師と「神経系(脳)」 頭部外傷時の合併症に関連する中枢神経障害の理解に必要な「神経系(脳)」の知識を学ぶ。	講義
15	柔道整復師と「神経系(脊髄・伝導路)」 外傷時の合併症に関連する中枢・末梢神経の障害の理解に必要な「神経系(脊髄・伝導路)」の知識を学ぶ。	講義
16	柔道整復師と「神経系(末梢神経)」 外傷時の合併症に関連する末梢神経障害の理解に必要な「神経系(末梢神経)」の知識を学ぶ。	講義
17	第14～16回のまとめ 柔道整復師と「神経系(脳・脊髄・神経)」復習と問題演習 外傷時の合併症の理解に必要な「神経系」の知識を学ぶ。	講義
18	柔道整復師と「感覚器(外皮・視覚器)」 外傷時に合併する皮膚損傷の理解に必要な「外皮」および頭部外傷の合併症の理解に必要な「視覚器」の知識を学ぶ。	講義
19	柔道整復師と「感覚器(聴覚器)」 頭部外傷の合併症の理解に必要な「聴覚器」の知識を学ぶ。	講義
20	柔道整復師と「内分泌器」 骨の癒合および病的骨折の発生機序の理解に必要な「内分泌器」の知識を学ぶ。	講義
21	第18回～第20回「神経系」「感覚器」「内分泌器」のまとめ。	講義
22	柔道整復師と「骨の構造、関節の構造、全身の筋」 骨折および、その治癒過程の理解に必要な「骨の構造」、また脱臼の理解に必要な「関節の構造」、骨折時の骨転移の理解に必要な「全身の筋」の知識を問題形式にて学ぶ。	講義
23	柔道整復師と「上肢・下肢の筋」 骨折時の骨転移の理解に必要な「全身の筋」の知識を問題形式にて学ぶ。	講義
24	第1回～第3回 柔道整復師に必要な「細胞と組織」「脈管系」についての問題演習と再復習	講義
25	第5回～第7回 柔道整復師に必要な「消化管」「呼吸器」についての問題演習と再復習	講義
26	第9回～第10回 柔道整復師に必要な「泌尿器」「生殖器」についての問題演習と再復習	講義
27	第12回～第14回 柔道整復師に必要な「神経系」についての問題演習と再復習	講義
28	第17回～第19回 柔道整復師に必要な「感覚器」「内分泌」についての問題演習と再復習	講義
29	総合復習1 第23回～第27回のまとめ(知識定着を目的とした反復演習)	講義
30	総合復習2 第23回～第27回のまとめ(知識定着を目的とした反復演習)	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	3年生 第1期、2期	村越 嵩紀	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学⑥		2 単位 60 時間

【科目概要】

・柔道整復師からみた柔道整復学と生理学のつながりを学び実践に活用できることを授業のねらいとする。

【到達目標】

・柔道整復師に必要な生理学領域の知識を総合的に用いて様々な問題の対応を可能にすることを目標とする。

【授業外における学習方法】

- ・事前学習(予習)として、これまで学んだ柔道整復師に必要な基礎的知識を復習しておくこと。
- ・事後学習(復習)として、講義で実施した内容を復習しておくこと。
- ・日々の復習と理解度確認を目的として、該当科目を範囲とする「実力試験」を定期的実施する(全6回)

※試験日程：5/16(土)、6/13(土)、7/11(土)、9/5(土)、10/17(土)、11/21(土)

※9/5(土)第4回実力試験の結果、理解に不安が見られる学生に対しては、早期に遅れを取り戻すための「補習講座」の受講を必須として指定する場合がある。柔道整復師としての資質を備えるための重要な教育指導の一環であり、対象者は原則として欠席は認めない。

【成績評価方法】

・本科目の単位修得は、原則として12月に実施する「2期科目合同試験」の結果によって判定する。全問題の正答率60%以上を合格基準とする。**※該当科目：臨床柔道整復学⑤・⑥・⑦、柔道整復実技特講④・⑤**

※成績の基本評価は上記試験によるが、日々の履修状況(授業への積極的な参加姿勢)は、合同試験突破の「必須プロセス」として強く注視するとともに、医療従事者を目指す者としての「基本姿勢」として極めて重要視する。そのため、授業とは関係のない私語、不必要な電子機器の操作、無断の入退出など、不良な参加状況や授業態度が見られた場合には、最大10点の範囲で減点を行うことがある。

※授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。

【使用教材】

- ・柔道整復学理論編第7版 南江堂
- ・生理学第4版 南江堂
- ・生理学インパクト 医道の日本社

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復師と「体の機能:総論」	講義
2	柔道整復師と「体の機能:血液①」	講義
3	柔道整復師と「体の機能:血液②」	講義
4	柔道整復師と「体の機能:循環①」	講義
5	柔道整復師と「体の機能:循環②」	講義
6	柔道整復師と「体の機能:呼吸①」	講義
7	柔道整復師と「体の機能:呼吸②」	講義
8	まとめ小テスト①	講義
9	柔道整復師と「体の機能:栄養と代謝」	演習
10	柔道整復師と「体の機能:消化と吸収①」	講義
11	柔道整復師と「体の機能:消化と吸収②」	講義
12	柔道整復師と「体の機能:体温とその調節」	講義
13	柔道整復師と「体の機能:尿の生成と排泄」	講義
14	まとめ小テスト②	講義
15	柔道整復師と「体の機能:内分泌①」	演習
16	柔道整復師と「体の機能:内分泌②」	講義
17	柔道整復師と「体の機能:生殖」	講義
18	柔道整復師と「体の機能:骨」	講義
19	柔道整復師と「体の機能:神経①」	講義
20	柔道整復師と「体の機能:神経②」	講義
21	まとめ小テスト③	講義
22	柔道整復師と「体の機能:運動①」	演習
23	柔道整復師と「体の機能:運動②」	講義
24	柔道整復師と「体の機能:筋」	講義
25	柔道整復師と「体の機能:感覚①」	講義
26	柔道整復師と「体の機能:感覚②」	講義
27	柔道整復師と「体の機能:高齢者・競技者の生理学的特徴と変化」	講義
28	まとめ小テスト④	講義
29	総合演習	演習
30	総合演習	演習

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026 年度	3年生 第1期、2期	吉田 晋 瀬谷 智美 煙山 奨也 川上 智志	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学⑦		2 単位 60 時間

【科目概要】

・柔道整復師からみた柔道整復学と一般臨床医学、整形外科、病理学、運動学のつながりを学び実践に活用できることを授業のねらいとする。

【到達目標】

・柔道整復師に必要な一般臨床医学、整形外科、病理学、運動学領域の知識を総合的に用いて様々な問題の対応を可能にすることを目標とする。

【授業外における学習方法】

- ・事前学習(予習)として、これまで学んだ柔道整復師に必要な基礎的知識を復習しておくこと。
- ・事後学習(復習)として、講義で実施した内容を復習しておくこと。
- ・日々の復習と理解度確認を目的として、該当科目を範囲とする「実力試験」を定期的実施する(全6回)

※試験日程：5/16(土)、6/13(土)、7/11(土)、9/5(土)、10/17(土)、11/21(土)

※9/5(土)第4回実力試験の結果、理解に不安が見られる学生に対しては、早期に遅れを取り戻すための「補習講座」の受講を必須として指定する場合がある。柔道整復師としての資質を備えるための重要な教育指導の一環であり、対象者は原則として欠席は認めない。

【成績評価方法】

・本科目の単位修得は、原則として12月に実施する「2期科目合同試験」の結果によって判定する。全問題の正答率60%以上を合格基準とする。※該当科目：臨床柔道整復学⑤・⑥・⑦、柔道整復実技特講④・⑤

※成績の基本評価は上記試験によるが、日々の履修状況(授業への積極的な参加姿勢)は、合同試験突破の「必須プロセス」として強く注視するとともに、医療従事者を目指す者としての「基本姿勢」として極めて重要視する。そのため、授業とは関係のない私語、不必要な電子機器の操作、無断の入退出など、不良な参加状況や授業態度が見られた場合には、最大10点の範囲で減点を行うことがある。

※授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。

【使用教材】

- ・柔道整復学理論編第7版 南江堂

【その他】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復学軟損①	講義
2	柔道整復学軟損②	講義
3	柔道整復学軟損③	講義
4	柔道整復学と一般臨床医学①	講義
5	柔道整復学と一般臨床医学②	講義
6	柔道整復学と一般臨床医学③	講義
7	柔道整復学と一般臨床医学④	講義
8	柔道整復学と一般臨床医学⑤	講義
9	柔道整復学と一般臨床医学⑥	講義
10	柔道整復学と一般臨床医学⑦	講義
11	柔道整復学と一般臨床医学⑧	講義
12	柔道整復学と一般臨床医学⑨	講義
13	柔道整復学と一般臨床医学⑩	講義
14	柔道整復学と一般臨床医学⑪	講義
15	柔道整復学と一般臨床医学⑫	講義
16	柔道整復学と一般臨床医学⑬	講義
17	柔道整復学と一整形外科①	講義
18	柔道整復学と一整形外科②	講義
19	柔道整復学と一整形外科③	講義
20	柔道整復学と一整形外科④	講義
21	柔道整復学と一整形外科⑤	講義
22	柔道整復学と病理学①	講義
23	柔道整復学と病理学②	講義
24	柔道整復学と病理学③	講義
25	柔道整復学と病理学④	講義
26	柔道整復学と病理学⑤	講義
27	柔道整復学と運動学①	講義
28	柔道整復学と運動学②	講義
29	柔道整復学と運動学③	講義
30	柔道整復学と運動学④	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2026年度	履修課程 3年生 第3期	担当教員 ◎大林典弘/荒井一彦/川上智志/煙山要也/瀬谷智美/西健喜/村越高紀/吉田晋	
講義区分 専門分野	授業科目名 臨床柔道整復学特講		6 単位 180 時間

【科目概要】

・柔道整復師の業務に関連する最低限必要な知識に関する演習および演習に対する知識を深める講義を行う。

【到達目標】

これまで1～2年次で学習した解剖学、生理学、運動学、外傷学などを基に、柔道整復師に必要な知識を総合的に用いて現場で起こりうる様々な問題に対応できる幅広い知識と応用力を身につけることを到達目標とする。

【授業外における学習方法】

- ・事前学習(予習)として、これまで学んだ柔道整復師に必要な基礎的知識を復習しておくこと。
- ・事後学習(復習)として、演習で出題された内容をすべて確認すること。

※1/30(土)授業内試験の結果、および理解に不安が見られる学生に対しては、早期に遅れを取り戻すための「補習講座」の受講を必須として指定する場合がある。柔道整復師としての資質を備えるための重要な教育指導の一環であり、対象者は原則として欠席は認めない。

【成績評価方法】

・3学期の本科目の単位修得は、原則として授業内に複数回実施される試験(計250問)の結果によって判定する。 ※

試験日程：2/13(土)、2/20(土)、2/27(土)

合格基準は国家試験に準拠し、以下の両方を満たすこととする。

必修問題(50問)：正答率80%(40点)以上

一般問題(200問)：正答率60%(120点)以上

※補習講座への出席および学習への取り組み状況が良好な場合は、上記の点数に加点を行うことがある。

※授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。

【使用教材】

- ・配布プリント
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(理論編)」第7版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(実技編)」改訂第2版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」改訂第2版 南江堂

【その他】

・演習形式と講義形式の2パターンで実施する。

・これまでに学んだ科目を包括的に問題演習し、演習で正答率の低かった内容を中心に講義を行う。

※日々の履修状況(授業内試験の結果、授業への積極的な参加姿勢)は、国家試験を突破するための「必須プロセス」として強く注視するとともに、医療従事者を目指す者としての「基本姿勢」として極めて重要視する。そのため、授業とは関係のない私語、電子機器の操作、無断の入退出など、不適切な授業態度がみられる者に対しては、試験の得点にかかわらず、教務上の指導対象(追加課題の賦課など)とする場合がある。

※シラバスは担当者によってまとめているが実際には別途配布する時間割に沿って行う。

※理解度、進捗状況により、内容の変更・追加・削減、順序を入れ替えて行うことがある。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション(授業の進め方・概要について) 柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、外傷学との関連 柔道整復に関わる上肢の運動器疾患を中心に	講義・演習
2	柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、外傷学との関連 柔道整復に関わる下肢の運動器疾患を中心に	講義・演習
3	柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、外傷学との関連 柔道整復に関わる体幹の運動器疾患を中心に	講義・演習
4	柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる運動療法を中心に	講義・演習
5	柔道整復学と解剖学、生理学、運動学、リハビリ医学との関連 柔道整復に関わる物理療法を中心に	講義・演習
6	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、職業倫理、柔道との関連 柔道整復に関わる頭部外傷を中心に	講義・演習
7	柔道整復学と解剖学、生理学、外科学、職業倫理、柔道との関連 柔道整復に関わる救急医学を中心に	講義・演習
8	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科との関連 柔道整復に関わる骨の疾患を中心に	講義・演習
9	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科との関連 柔道整復に関わる関節の疾患を中心に	講義・演習
10	柔道整復学と解剖学、生理学、内科学、整形外科との関連 柔道整復に関わる筋の疾患を中心に	講義・演習
11	柔道整復学と解剖学、生理学、衛生学、関係法規との関連 柔道整復に関わる医療法を中心に	講義・演習
12	柔道整復学と解剖学、生理学、衛生学、関係法規との関連 柔道整復に関わる社会保障制度関連法を中心に	講義・演習
13	柔道整復師と「骨・関節損傷総論」 柔道整復師に必要な「骨・関節損傷総論」に関する知識を学ぶ。骨・関節損傷への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
14	柔道整復師と「上肢の疾患」① 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
15	柔道整復師と「上肢の疾患」② 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習

回	講義内容	備考
16	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織①) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
17	柔道整復師と「上肢の疾患」(軟部組織②) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
18	復習1(第13回～第17回の復習を目的とする) 事前学習: 第13回～第17回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと <u>* 授業内確認テスト1</u>	講義・演習
19	柔道整復師と「下肢の疾患」① 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する	講義・演習
20	柔道整復師と「下肢の疾患」② 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
21	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織①) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する	講義・演習
22	柔道整復師と「下肢の疾患」(軟部組織②) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する。	講義・演習
23	復習2(第19回～第22回の復習を目的とする) 事前学習: 第19回～第22回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと <u>* 授業内確認テスト2</u>	講義・演習
24	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」① 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する	講義・演習
25	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」②(軟部組織) 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などについて復習する	講義・演習
26	復習3および総括(第1回～第25回の復習を目的とする) 事前学習: 第1回～第25回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと <u>* 授業内確認テスト3</u>	講義・演習
27	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 総論編	講義・演習
28	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 血液編	講義・演習
29	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 循環編	講義・演習
30	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 呼吸編	講義・演習
31	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 消化 & 吸収	講義・演習

回	講義内容	備考
32	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 栄養と代謝編	講義・演習
33	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 体温編	講義・演習
34	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 尿の生成と排泄編	講義・演習
35	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 内分泌編①	講義・演習
36	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 内分泌編②	講義・演習
37	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 生殖編	講義・演習
38	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 骨編	講義・演習
39	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 体液編	講義・演習
40	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 神経編①	講義・演習
41	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 神経編②	講義・演習
42	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 運動編①	講義・演習
43	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 運動編②	講義・演習
44	柔道整復師に必要な鑑別診断の知識 筋肉編	講義・演習
45	運動器疾患に関わる診察法、治療法 柔道整復師にとって必要な診察法、治療法を画像検査、観血療法含めて学ぶ	講義・演習
46	上肢の末梢神経障害 胸郭出口症候群、頸椎椎間板ヘルニア、上肢絞扼神経障害などの症状・鑑別について学ぶ	講義・演習
47	下肢の末梢神経障害 腰椎椎間板ヘルニア、下肢絞扼神経障害などの症状・鑑別について学ぶ	講義・演習

回	講義内容	備考
48	脊椎の疾患 脊椎疾患の中で、柔道整復師の否適応疾患について鑑別に必要な知識について学ぶ	講義・演習
49	運動器の感染性疾患・非感染性疾患 運動器の感染性疾患・非感染性疾患について柔道整復師の適応の鑑別に必要な知識について学ぶ	講義・演習
50	運動器の腫瘍 柔道整復師の否適応疾患である腫瘍の鑑別・症状について学ぶ	講義・演習
51	運動器の先天性疾患 運動器の先天性疾患について柔道整復師の適応の鑑別に必要な知識について学ぶ	講義・演習
52	全身性神経・筋疾患 柔道整復師の否適応疾患である全身性神経・筋疾患について鑑別に必要な知識を学ぶ	講義・演習
53	骨端症 骨端症について症状・鑑別について学ぶ	講義・演習
54	スポーツ外傷・障害 スポーツ現場でみられる外傷・障害の発生頻度、特徴について学ぶ あわせて、スポーツ現場で発症しうる脊髄損傷の症状・対応について学ぶ	講義・演習
55	柔道整復師としての患者対応 柔道整復師としての職業倫理と社会的責任について学ぶ	講義・演習
56	医療面接 柔道整復師としての患者に信頼される医療面接について学ぶ	講義・演習
57	柔道整復師施術管理者・医療保険制度 柔道整復師の受領委任払いについて学び、社会的責任を全うしうる知識を修得する	講義・演習
58	柔道整復師に関わる社会保障制度 柔道整復師に関わる社会保障制度を理解し、セーフティネットの一役を担い得るための知識を学ぶ	講義・演習
59	柔道整復師に関わる法律・規則 柔道整復師として法令遵守し、社会的信頼を得るための知識を学ぶ	講義・演習
60	医療従事者に関わる法律・規則 医師など柔道整復師と関わる医療従事者の法令を学ぶ	講義・演習
61	柔道整復師と内科的疾患① 柔道整復師に必要な「消化器疾患」について復習する	講義・演習
62	柔道整復師と内科的疾患② 柔道整復師に必要な「呼吸器疾患」について復習する	講義・演習
63	柔道整復師と内科的疾患③ 柔道整復師に必要な「循環器疾患」について復習する	講義・演習

回	講義内容	備考
64	柔道整復師と内科的疾患④ 柔道整復師に必要な「血液疾患」について復習する	講義・演習
65	柔道整復師と内科的疾患⑤ 柔道整復師に必要な「内分泌・代謝疾患」について復習する	講義・演習
66	柔道整復師と内科的疾患⑥ 柔道整復師に必要な「膠原病」について復習する	講義・演習
67	柔道整復師と内科的疾患⑦ 柔道整復師に必要な「腎・尿路疾患」について復習する	講義・演習
68	柔道整復師と内科的疾患⑧ 柔道整復師に必要な「神経疾患」について復習する	講義・演習
69	柔道整復師と内科的疾患⑨ 柔道整復師に必要な「感染症」について復習する	講義・演習
70	柔道整復師と内科的疾患⑩ 柔道整復師に必要な「診察(医療面接・視診・打診・聴診・触診・生命徴候・感覚検査・反射検査)」について復習する	講義・演習
71	柔道整復師と「骨の構造、関節の構造」 骨折および、その治癒過程の理解に必要な「骨の構造」、また脱臼の理解に必要な「関節の構造」について復習する。	講義・演習
72	柔道整復師と「頭頸部の骨筋、上肢体幹の骨、上肢体幹の筋」 頭蓋骨損傷の理解に必要な「頭蓋骨の構造」「頭頸部の筋」、骨折脱臼の整復操作における生理的状態の理解に必要な「上肢・体幹の骨構造」、骨折時の骨の転位の理解に必要な「上肢・体幹の筋」について復習する。	講義・演習
73	柔道整復師と「上肢体幹の骨筋、下肢の骨筋」① 骨折脱臼の整復操作における生理的状態の理解に必要な「上肢・体幹・下肢の骨構造」、骨折時の骨の転位の理解に必要な「上肢・体幹・下肢の筋」について復習する。	講義・演習
74	柔道整復師と「上肢体幹の骨筋、下肢の骨筋」② 骨折脱臼の整復操作における生理的状態の理解に必要な「上肢・体幹・下肢の骨構造」、骨折時の骨の転位の理解に必要な「上肢・体幹・下肢の筋」について復習する。	講義・演習
75	柔道整復師と「消化器(口腔～直腸)」 外傷時の合併症の理解に必要な「口腔内の構造」、および「消化管(食道～直腸)」について復習する。	講義・演習
76	柔道整復師と「消化器(肝臓・胆嚢・膵臓)、呼吸器(鼻～肺)①」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷の理解に必要な「消化器(肝臓・胆嚢・膵臓)、および呼吸器(鼻腔～)」について復習する。	講義・演習
77	柔道整復師と「呼吸器(鼻～肺)②」「泌尿器(腎臓～尿道)」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷の理解に必要な「呼吸器(～肺)」「泌尿器(腎臓～尿道)」について復習する。	講義・演習
78	柔道整復師と「生殖器(男性・女性)」 外傷時の合併症に関連する臓器損傷の理解に必要な「生殖器(男性・女性)」について復習する。	講義・演習
79	柔道整復師と「神経系(脳)」 頭部外傷時の合併症に関連する中枢神経障害の理解に必要な「神経系(脳)」について復習する。	講義・演習

回	講義内容	備考
80	柔道整復師と「神経系(脊髄・伝導路)」 外傷時の合併症に関連する中枢・末梢神経の障害の理解に必要な「神経系(脊髄・伝導路)」について復習する。	講義・演習
81	柔道整復師と「神経系(末梢神経)」 外傷時の合併症に関連する末梢神経障害の理解に必要な「神経系(末梢神経)」について復習する、	講義・演習
82	柔道整復師と「感覚器(外皮・視覚器・聴覚器)」 外傷時に合併する皮膚損傷の理解に必要な「外皮」および頭部外傷の合併症の理解に必要な「視覚器・聴覚器」について復習する。	講義・演習
83	柔道整復師と「内分泌器」 骨の癒合および病的骨折の発生機序の理解に必要な「内分泌器」について復習する。	講義・演習
84	柔道整復師に必要な「骨・筋」についての問題演習と再復習	講義・演習
85	柔道整復師に必要な「細胞と組織」「脈管系」についての問題演習と再復習	講義・演習
86	柔道整復師に必要な「消化管」「呼吸器」についての問題演習と再復習	講義・演習
87	柔道整復師に必要な「泌尿器」「生殖器」についての問題演習と再復習	講義・演習
88	柔道整復師に必要な「神経系」についての問題演習と再復習	講義・演習
89	柔道整復師に必要な「感覚器」「内分泌」についての問題演習と再復習	講義・演習
90	総合復習 第84回～第89回のまとめ(知識定着を目的とした反復演習)	講義・演習

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	3年生 第1期	荒井一彦 村越 嵩紀	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講①		1 単位 30 時間

【科目概要】

・3年生までに学習した臨床柔道整復学ならびに柔道整復実技を特に骨折・脱臼・軟損を中心に、総合的かつ実践的に学習し習得することとする。

【到達目標】

・柔道整復術の施術のうち骨折・脱臼・軟損を中心に診断から整復・事後確認までの実践的施術実技を習得する。

【授業外における学習方法】

・グループになり学生同士での取り組み。

【成績評価方法】

実技試験：70%

平常点（出席・態度・反復練習）：30%

・計100点満点にて評価する。

出席回数

（各学期にて3回以上欠席は試験の受験資格を認めない。試験後の場合は試験点数を含まない。）

・合格点に満たない学生には、追再試験を実施する。又、補講、補習、課題提出を実施し、総合的に評価する。

【使用教材】

- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(理論編)」第7版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(実技編)」第2版 南江堂

【その他】

・1講義の欠席分を取り戻すのはとても大変なことです。欠席することの無いように体調管理には充分配慮してください。

【 内容・日程 】		
回	内容	備考
1	鎖骨骨折の診察・整復	実技
2	コーレス骨折の診察・整復	実技
3	上腕骨外科頸骨折の診察・整復	実技
4	肩鎖関節脱臼の診察・整復	実技
5	肩関節脱臼の診察・整復	実技
6	肘関節脱臼の診察・整復	実技
7	肘内障の診察・整復	実技
8	肩腱板損傷の診察・整復	実技
9	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察・整復	実技
10	ハムストリングス損傷(肉離れ)の診察・整復	実技
11	大腿四頭筋打撲の診察・整復	実技
12	膝側副靭帯損傷の診察・整復	実技
13	膝十字靭帯損傷の診察・整復	実技
14	膝半月板損傷の診察・整復	実技
15	下腿三頭筋損傷の診察・整復	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	3年生 第1期	紺野 直能 菊地 正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講②		1 単位 30 時間

【科目概要】

柔道整復術とは「整復、固定、後療法」である。各外傷に対する非観血療法の処置を実践し、それを体得することが臨床上必須になる。本講義では、各外傷の診察・整復・検査方法学び実践していく。

【到達目標】

学習した柔道整復術の内容を十分に理解し、実践する事が出来るようにする。

【授業外における学習方法】

柔道整復学（理論編・実技編）による予習、復習で学習すること。

【成績評価方法】

出席率、授業態度および実技試験で総合的に判断し、100点満点で評価する。

出席回数

（各学期にて3回以上欠席は試験の受験資格を認めない。試験後の場合は試験点数を含まない。）

【使用教材】

柔道整復学 理論編 南江堂

柔道整復学 実技編 南江堂

【その他】

講義は各自の白衣着用して受講すること。（装飾品は全て外すこととする。）

配布された各裂数の包帯を持参して講義を受けること。

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	鎖骨骨折	実技
2	上腕骨外科頸骨折	実技
3	橈骨遠位端部骨折(コーレス骨折)	実技
4	肩鎖関節脱臼	実技
5	肩関節脱臼	実技
6	肘関節脱臼・肘内障	実技
7	肩腱板損傷	実技
8	上腕二頭筋腱損傷	実技
9	ハムストリングス損傷	実技
10	大腿四頭筋打撲	実技
11	膝関節内側側副靭帯損傷	実技
12	膝関節十字靭帯損傷	実技
13	膝関節半月板損傷	実技
14	下腿三頭筋損傷	実技
15	足関節外側靭帯損傷	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026 年度	3年生 第2期	荒井 一彦 村越 嵩紀 吉田 晋 川上 智志 菊地 正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講③		2 単位 60 時間

【科目概要】

・3年生までに学習した臨床柔道整復学ならびに柔道整復実技を特に骨折・脱臼・軟損を中心に、総合的かつ実践的に学習し習得すること目的とする。

【到達目標】

・柔道整復術の施術のうち骨折・脱臼・軟損を中心に診断から整復・事後確認までの実践的施術実技を習得する。

【授業外における学習方法】

・グループになり学生同士での取り組み。

【成績評価方法】

実技試験：70%

平常点（出席・態度・反復練習）：30%

・計100点満点にて評価する。

出席回数

(6回以上欠席は試験の受験資格を認めない。試験後の場合は試験点数を含まない。)

・合格点に満たない学生には、追再試験を実施する。又、補講、補習、課題提出を実施し、総合的に評価する。

【使用教材】

・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(理論編)」第7版 南江堂

・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(実技編)」第2版 南江堂

【その他】

・1講義の欠席分を取り戻すのはとても大変なことです。欠席することの無いように体調管理には充分配慮してください。

【 内容・日程 】		
回	内容	備考
1	足関節外側靭帯損傷の診察	実技
2	コーレス骨折の診察・整復	実技
3	上腕骨外科頸骨折の診察・整復	実技
4	肩鎖関節脱臼の診察・整復	実技
5	肩関節脱臼の診察・整復	実技
6	肘関節脱臼の診察・整復	実技
7	肘内障の診察・整復	実技
8	肩腱板損傷の診察	実技
9	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
10	ハムストリングス損傷(肉離れ)の診察	実技
11	大腿四頭筋打撲の診察	実技
12	膝側副靭帯損傷の診察	実技
13	膝十字靭帯損傷の診察	実技
14	膝半月板損傷の診察	実技
15	下腿三頭筋損傷の診察	実技
16	鎖骨骨折の診察・整復	実技
17	コーレス骨折の診察・整復	実技
18	上腕骨外科頸骨折の診察・整復	実技
19	肩鎖関節脱臼の診察・整復	実技
20	肩関節脱臼の診察・整復	実技
21	肘関節脱臼の診察・整復	実技
22	肘内障の診察・整復	実技
23	肩腱板損傷の診察	実技
24	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察	実技
25	ハムストリングス損傷(肉離れ)の診察	実技
26	大腿四頭筋打撲の診察	実技
27	膝側副靭帯損傷の診察	実技
28	膝十字靭帯損傷の診察	実技
29	膝半月板損傷の診察	実技
30	下腿三頭筋損傷の診察	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2026年度	3年生 第1,2期	◎大林典弘／荒井一彦／川上智志／煙山奨也／瀬谷智美／西健喜／村越嵩紀／吉田晋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講④		2 単位 60 時間

【科目概要】

・1～2年次で培った知識・技術を基盤とし、本講義では各部位の骨折・脱臼、および軟部組織損傷についてさらに学習を深める。臨床現場を想定した発展的な学習として、多様な損傷に対する評価・鑑別から、整復・固定・後療法に至る一連の過程を総合的に捉え、柔道整復師として必要な実践的判断力と応用技術を修得する。

【到達目標】

・1～2年次で学習した内容を統合し、骨折・脱臼・軟部組織損傷に対するより高度で実践的な柔道整復術（評価法・整復法・固定法・後療法）を習得する。
 ・複雑な発生機序や臨床症状を深く理解し、臨床現場や実習に即応できる問題解決能力と確実な技術を身につける。

【授業外における学習方法】

- ・事前学習(予習)として、これまで学んだ柔道整復師に必要な基礎的知識を復習しておくこと。
- ・事後学習(復習)として、講義で実施した内容を復習しておくこと。
- ・日々の復習と理解度確認を目的として、該当科目を範囲とする「実力試験」を定期的実施する（全6回）

※試験日程：5/16(土)、6/13(土)、7/11(土)、9/5(土)、10/17(土)、11/21(土)

※9/5(土)第4回実力試験の結果、理解に不安が見られる学生に対しては、早期に遅れを取り戻すための「補習講座」の受講を必須として指定する場合がある。柔道整復師としての資質を備えるための重要な教育指導の一環であり、対象者は原則として欠席は認めない。

【成績評価方法】

・本科目の単位修得は、原則として12月に実施する「2期科目合同試験」の結果によって判定する。全問題の正答率60%以上を合格基準とする。※**該当科目：臨床柔道整復学⑤・⑥・⑦、柔道整復実技特講④・⑤**

※成績の基本評価は上記試験によるが、日々の履修状況（授業への積極的な参加姿勢）は、合同試験突破の「必須プロセス」として強く注視するとともに、医療従事者を目指す者としての「基本姿勢」として極めて重要視する。そのため、授業とは関係のない私語、不必要な電子機器の操作、無断の入退出など、不良な参加状況や授業態度が見られた場合には、最大10点の範囲で減点を行うことがある。

※**授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。**

【使用教材】

- ・配布プリント
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(理論編)」第7版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(実技編)」改訂第2版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」改訂第2版 南江堂

【その他】

●履修にあたっての留意点

1. 1 講義の欠席分を取り戻すのはとても大変なことです。
欠席することの無いように体調管理には充分配慮すること。
2. 授業時間内で理解できなかった箇所、疑問点はそのままにせず早めに解決すること。
図書室などを利用し専門書にて理解度を深めてください。教員への質問は歓迎します。

※理解度、進捗状況により、内容の変更・追加・削減、順序を入れ替えて行うことがある。

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション 柔道整復師と「骨・関節損傷総論」①(骨折分類、症状) 授業の進め方と、柔道整復師に必要な「骨・関節損傷総論」に関する基礎知識を学ぶ。骨・関節損傷への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置の基本手順を再確認する。	実技
2	柔道整復師と「骨・関節損傷総論」②(骨折合併症、小児・高齢者骨折) 骨折に伴う合併症の知識や、小児・高齢者に特有の骨折の特徴、柔道整復師が知っておくべきリスク管理について学ぶ。	実技
3	柔道整復師と「骨・関節損傷総論」③(脱臼分類、症状) 脱臼の分類、発生機序、固有症状などの基本事項を総復習し、柔道整復師としての初期対応と応急処置の基本を学ぶ。	実技
4	柔道整復師と「神経・筋疾患」 柔道整復師が遭遇しやすい神経・筋疾患に関する基礎知識を復習する。それぞれの患者への対応や、禁忌事項について学ぶ。	実技
5	復習1(第1回～第4回の復習を目的とする) 事前学習:第1回～第4回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト1(第1～4回講義分)	実技
6	柔道整復師と「診察・治療法」 問診、視診、触診などの基本的診察法と、物理療法・手技療法などの治療法の原則について、柔道整復師の業務範囲に基づき復習する。	実技
7	柔道整復師と「下肢の疾患」①(骨折) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置の基本手順を再確認する。	実技
8	柔道整復師と「下肢の疾患」②(骨折) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置の基本手順を再確認する。	実技
9	復習2(第1回～第8回の復習を目的とする) 事前学習:第1回～第8回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト2(第1～8回講義分)	実技
10	柔道整復師と「下肢の疾患」③(骨折) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
11	柔道整復師と「軟部組織損傷」①(総論) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。軟部組織損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
12	柔道整復師と「軟部組織損傷」②(総論) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。軟部組織損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技

回	講義内容	備考
13	<p>復習3(第1回～第12回の復習を目的とする) 事前学習:第1回～第12回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト3(第1～12回講義分)</p>	実技
14	<p>柔道整復師と「軟部組織損傷」③(頭部の損傷) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。頭部軟部組織損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。</p>	実技
15	<p>柔道整復師と「軟部組織損傷」④(頭部・体幹の損傷) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。頭部・体幹部の軟部組織損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。</p>	実技
16	<p>柔道整復師と「軟部組織損傷」⑤(頭部・体幹の損傷) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。頭部・体幹部の軟部組織損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。</p>	実技
17	<p>復習4(第1回～第16回の復習を目的とする) 事前学習:第1回～第16回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト4(第1～16回講義分)</p>	実技
18	<p>柔道整復師と「軟部組織損傷」⑥(上肢末梢神経損傷) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。上肢末梢神経損傷患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。</p>	実技
19	<p>柔道整復師と「軟部組織損傷」⑦(上肢末梢神経損傷) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。上肢末梢神経損傷患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。</p>	実技
20	<p>柔道整復師と「軟部組織損傷」⑧(肩部の軟部組織損傷) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。肩部の軟部組織損傷患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。</p>	実技
21	<p>柔道整復師と「軟部組織損傷」⑨(肘・前腕部の軟部組織損傷) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。肘・前腕部の軟部組織損傷患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。</p>	実技
22	<p>復習5(第1回～第21回の復習を目的とする) 事前学習:第1回～第21回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト5(第1～21回講義分)</p>	実技
23	<p>柔道整復師と「軟部組織損傷」⑩(手・指部の軟部組織損傷) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。手・指部の軟部組織損傷患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。</p>	実技
24	<p>柔道整復師と「軟部組織損傷」⑪(股関節部の軟部組織損傷) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。股関節部の軟部組織損傷患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。</p>	実技
25	<p>柔道整復師と「軟部組織損傷」⑫(膝関節部の軟部組織損傷) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。膝関節部の軟部組織損傷患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。</p>	実技
26	<p>復習6(第1回～第25回の復習を目的とする) 事前学習:第1回～第25回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト6(第1～25回講義分)</p>	実技
27	<p>柔道整復師と「軟部組織損傷」⑬(下腿・足関節部の軟部組織損傷) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節部の軟部組織損傷患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。</p>	実技

回	講義内容	備考
28	柔道整復師と「軟部組織⑭(下肢の末梢神経損傷) 柔道整復師に必要な「軟部組織損傷」に関する知識を学ぶ。下肢の末梢神経損傷患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
29	復習7(第1回～第28回の復習を目的とする) 事前学習:第1回～第28回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと *総合演習	実技
30	復習8(第1回～第29回の復習を目的とする) 事前学習:第1回～第29回の配布資料を再読すること 事後学習:配布資料を見直すこと *総合演習	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2026年度	履修課程 3年生 第1,2期	担当教員 大林典弘	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復実技特講⑤		2 単位 60 時間

【科目概要】

・それぞれの損傷について、発生要因、機序、骨片転位に作用する筋群との関連、特徴および臨床症状を中心に、その応急処置の重要性、施術の意義を理解し、技術を修得する。

【到達目標】

・これまで1～2年次で学習した柔道整復学の知識・技術を基に、主に骨折・脱臼についての知識を深め、評価法・整復法・固定法・後療法などの臨床現場で必要な柔道整復術を理解・習得する。授業で学んだことを模擬的に体験することにより、知識を深め技術の修得を目標とする。

【授業外における学習方法】

- ・事前学習(予習)として、これまで学んだ柔道整復師に必要な基礎的知識を復習しておくこと。
- ・事後学習(復習)として、講義で実施した内容を復習しておくこと。
- ・日々の復習と理解度確認を目的として、該当科目を範囲とする「実力試験」を定期的実施する(全6回)

※試験日程：5/16(土)、6/13(土)、7/11(土)、9/5(土)、10/17(土)、11/21(土)

※9/5(土)第4回実力試験の結果、理解に不安が見られる学生に対しては、早期に遅れを取り戻すための「補習講座」の受講を必須として指定する場合がある。柔道整復師としての資質を備えるための重要な教育指導の一環であり、対象者は原則として欠席は認めない。

【成績評価方法】

・本科目の単位修得は、原則として12月に実施する「2期科目合同試験」の結果によって判定する。全問題の正答率60%以上を合格基準とする。※該当科目：臨床柔道整復学⑤・⑥・⑦、柔道整復実技特講④・⑤

※成績の基本評価は上記試験によるが、日々の履修状況(授業への積極的な参加姿勢)は、合同試験突破の「必須プロセス」として強く注視するとともに、医療従事者を目指す者としての「基本姿勢」として極めて重要視する。そのため、授業とは関係のない私語、不必要な電子機器の操作、無断の入退出など、不良な参加状況や授業態度が見られた場合には、最大10点の範囲で減点を行うことがある。

※授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。

【使用教材】

- ・配布プリント
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(理論編)」第7版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学(実技編)」改訂第2版 南江堂
- ・全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」改訂第2版 南江堂

【その他】

●履修にあたっての留意点

1. 1講義の欠席分を取り戻すのはとても大変なことです。
欠席することの無いように体調管理には充分配慮すること。
2. 授業時間内で理解できなかった箇所、疑問点はそのままにせず早めに解決すること。
図書室などを利用し専門書にて理解度を深めてください。教員への質問は歓迎します。

※理解度、進捗状況により、内容の変更・追加・削減、順序を入れ替えて行うことがある。

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション 柔道整復師と「骨・関節損傷総論」発展①(骨折分類、症状) 柔道整復実技特講④の知識を元に、骨片転位に作用する筋群の力学や、それに伴う軟部組織損傷の評価法を学ぶ。より臨床的な視点から損傷の全体像を捉える力を養う。	実技
2	柔道整復師と「骨・関節損傷総論」発展②(骨折合併症、小児・高齢者骨折) 柔道整復実技特講④で学んだ合併症(コンパートメント症候群など)の早期発見・鑑別法を実践的に学ぶ。また、小児・高齢者の特性に合わせた応用的な固定技術を修得する。	実技
3	柔道整復師と「骨・関節損傷総論」発展③(脱臼分類、症状) 柔道整復実技特講④の知識を発展させ、安全かつ確実な整復法を生体力学的(バイオメカニクス)な観点から学ぶ。また、反復性脱臼や靭帯損傷(軟部組織損傷)の評価と処置を深める。	実技
4	柔道整復師と「神経・筋疾患」発展(徒手検査法と鑑別診断) 柔道整復実技特講④の知識を活用し、臨床現場で不可欠となる各種徒手検査法や外傷と神経・筋疾患の鑑別診断について学ぶ。	実技
5	復習1(第1回～第4回の復習を目的とする) 事前学習: 第1回～第4回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト1(第1～5回講義分)	実技
6	柔道整復師と「診察・治療法」発展(模擬患者を用いた実践的評価とインフォームドコンセント) 柔道整復実技特講④の手順を基に、実践的な診察の流れを修得する。患者への適切な説明(インフォームドコンセント)について学ぶ。	実技
7	柔道整復師と「下肢の疾患」発展①(骨折) 柔道整復実技特講④の手順を基に、柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。骨盤・股関節・大腿・膝関節損傷の患者への対応や、求められる鑑別と応用的な固定法を学ぶ。	実技
8	柔道整復師と「下肢の疾患」発展②(骨折) 柔道整復実技特講④で学んだ損傷に対する「後療法(手技療法・運動療法)」について実践的に学ぶ。関節可動域の回復や筋力強化など、社会復帰に向けた段階的な指導法を修得する。	実技
9	復習2(第1回～第8回の復習を目的とする) 事前学習: 第1回～第8回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト2(第1～8回講義分)	実技
10	柔道整復師と「下肢の疾患」発展③(骨折) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
11	柔道整復師と「下肢の疾患」発展④(骨折) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
12	柔道整復師と「下肢の疾患」発展⑤(骨折) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。下腿・足関節・足・足趾損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
13	復習3(第1回～第12回の復習を目的とする) 事前学習: 第1回～第12回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト3(第1～12回講義分)	実技
14	柔道整復師と「上肢の疾患」①(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
15	柔道整復師と「上肢の疾患」発展②(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
16	柔道整復師と「上肢の疾患」発展③(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肩甲帯・上腕・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技

回	講義内容	備考
17	柔道整復師と「上肢の疾患」④(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
18	柔道整復師と「上肢の疾患」発展⑤(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
19	柔道整復師と「上肢の疾患」発展⑥(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
20	柔道整復師と「上肢の疾患」発展⑦(骨折) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。前腕・手関節・手・手指損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
21	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」① 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
22	復習5(第1回～第21回の復習を目的とする) 事前学習: 第1回～第21回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト5(第1～21回講義分)	実技
23	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」発展② 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
24	柔道整復師と「頭部・体幹の疾患」発展③ 柔道整復師に必要な「頭部・体幹の疾患」に関する知識を学ぶ。頭部・顔面部・頸部・胸部・腰部損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
25	柔道整復師と「上肢の疾患」①(脱臼) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。肩・肘関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
26	復習6(第1回～第25回の復習を目的とする) 事前学習: 第1回～第25回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと * 授業内確認テスト6(第1～25回講義分)	実技
27	柔道整復師と「上肢の疾患」③(脱臼) 柔道整復師に必要な「上肢の疾患」に関する知識を学ぶ。手関節・手指関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
28	柔道整復師と「下肢の疾患」①(脱臼) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。股関節・膝関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
29	柔道整復師と「下肢の疾患」②(脱臼) 柔道整復師に必要な「下肢の疾患」に関する知識を学ぶ。足関節・足趾関節損傷の患者への対応や柔道整復師が知っておくべき応急処置などを学ぶ。	実技
30	総括(第1回～第29回の復習を目的とする) 事前学習: 第1回～第29回の配布資料を再読すること 事後学習: 配布資料を見直すこと	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部:午後
開講年度	履修課程	担当教員(代表)	
2026年度	3年生 第1期	◎紺野直能、井口良平、菊地正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床実習(3年生)		1 単位 45 時間

【授業の到達目標およびテーマ】			
・医療における診療を理解し、医療の一端を担う柔道整復師の役割を学ぶ。			
【講義概要】			
・接骨院実習、救護現場実習(1.2年次)の知識、経験を応用、発展させ、医師による診療や、各疾患の処置を学び、柔道整復師の業務範囲を理解し、医接連携の重要性を学ぶ。			
【成績評価方法】			
・各院の医師、または実習指導者により、各項目を4段階評価する。			
・評価内容は、態度、心得、付帯業務の表現、診療補助での知識、表現とする。			
【授業の特徴・形式】			
・見学型の実習を主とし、実習指導者の下、一部参加型とする。			
【教科書・参考書】			
・学校教育で使用される書籍全般			
【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考
1	臨床実習	・各臨床実習施設毎にて実施する。	
2	方法	・医療面接、身体診察、ROM、MMT、徒手検査、X-Pの見方、物理療法、固定法、カルテ	
3			